

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型重症児(者) デイきらめキッズ				公表日	2025年 2月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		利用児童に対して十分なスペースが確保している。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9		利用児童の安全確保が図られるよう職員の配置は基準を十分満たしている。	職員の休憩時間がきちんと確保できるような人員体制に今後気を付けたい。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		10		医療的ケアの必要な利用児童が多いため利用児童にあった施設設備に工夫改善している。	さらに利用児童が安全に利用できるような環境に常に心掛けたい。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		10		明るい雰囲気心がけ利用児童が安全に楽しく活動できるように掲示物等工夫している。	利用児童の気持ちや視線を意識した興味を持つ掲示物を工夫していく。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		10		必要に応じて個別の対応が取れるような場所を確保している。	個別の対応が取れるように場所を確保したり仕切りをして工夫していきたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		定例会議を持って活動内容について話し合っている。	職員全員が一堂にそろうことはなかなか難しい環境にあるので情報共有に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		評価を実施し保護者の意見を踏まえて事業所の運営の改善につなげている。	今後も評価表を実施し保護者の意向を把握して業務改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	6	第三者評価ができるように準備をしているところである	今後第三者による外部評価ができるようにしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		職員の資質向上に向けた研修の受講については積極的に推進している。	今後事業所内での研修の時間が確保できるように研修の持ち方等も含めて検討していく	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		適切に支援プログラムが作成、公表されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		定期的にあセスメントを実施し利用児童や保護者のニーズや課題を把握したうえで個別の支援計画を作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		個別の支援計画を作成する際は職員の共通理解を図っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		支援計画は職員間でファイリングされいつでも見られるようにして共有されている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			今後もアセスメントの方法について研修し、よりよいアセスメントを作成していきたい。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8			児童発達支援ガイドラインに記されている「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」について検討していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		活動プログラムの立案を月一回会議を持って意見を出し合い検討している。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		活動プログラムの立案を月一回会議を持って意見を出し合い固定化しないように検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し支援が行われている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		支援開始前には打ち合わせを行い連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		支援終了後は振り返りを行い次回の支援に生かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		日々の支援に関して記録を取り、支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		定期的にモニタリングを行い支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		サービス担当者会議にはその子どもの状況をよく理解したものが参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		地域の医療機関などの関係機関と連携して支援を行う体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	6		就学時の移行の際には小学校や特別支援学校(小学部)との間で支援内容の情報共有をあまり図れていないので今後検討していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	2	地域の児童発達支援センターとの連携は利用児童を通じて連携している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		9		保育所や認定こども園、幼稚園との交流はまだできていないので今後どのような形でできるか検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		日頃から利用児童の状況を保護者と様々な形で伝えあい利用児童の状況や課題について共通理解している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4		家族が参加できる研修の機会がどのような形で持てるか今後検討していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		運営規程、支援プログラム、利用者負担等について面談で丁寧に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		児童発達支援計画を作成する際には利用児童や保護者の意思を尊重して作成し確認している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		児童発達支援計画を示し同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		定期的に家族等から子育ての悩み等を聞きながら必要な助言をしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3	毎年恒例の秋の収穫祭に家族で参加していたり交流の機会になっている。	交流の機会をもっと持てるように模索している。開催できるようにしていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		保護者からの相談や申し入れに対していつでも対応できるような態勢を取っておりできるだけ早く対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		定期的のホームページをアップして活動の様子を紹介している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		個人情報保護の観点で個人情報の扱いには慎重に対応している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		地域の中学生のチャレンジを受け入れたり研修等の受け入れをしている。	もう少し幅広く地域に開かれた事業運営をしていく必要がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し職員に周知している。保護者へに周知がまだ不十分なことが課題である。	事業所内は職員がよく見えるように設置し送迎車にも緊急時対応カードを常時置いている。さらに保護者にも丁寧に周知していきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		業務継続計画（BCP）を策定し、必要な避難訓練は実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		事前に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況は保護者から聞き取り確認してファイルでいつでも確認できるようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		食物アレルギーのあるこどもについて把握し、指示書に基づく対応をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全計画を作成し安全管理に必要な研修や訓練を行っている。消防による救命救急講習を受けている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		子どもの安全確保については常に連携をして取り組んでいる。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハットを作成し事業所内で共有し再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		虐待防止に関する研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		9	身体拘束は行っていない。		